俺と勇者と（彼女）

葵オリカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
俺と勇者と（彼女）

【Ｎコード】
Ｎ７４８３Ｉ

【作者名】
葵オリカ

【あらすじ】
武田悠哉はおそらく今世紀最大であろうパニック状態に陥っていた。彼がいるのは見覚えのない広大な草原。彼はいつの間にやら、奇妙な世界に迷い込んでいたのだ。勇者なのかそうではないのか、いまいち立ち位置のはっきりしない微妙な高校生が繰り広げる、おバカファンタジー。

〔第1章　始まりはここから〕　第1話　異世界迷い込み？

冷静になって考えれば、俺がこの奇妙な世界へ迷い込んだのは偶然じゃないのかもしれない。

よく相対性理論やら何やらで、「時間のねじれで、どこかに穴が開いて、それにはまって…」なんて言うけど、そんな小難しい理論じゃなくて、俺が今ここにいるのは、何か理由があって、神様か何かが俺に試練を与えているんじゃないのか、とかっていろいろ考えてみるけど。

でも、それでも俺が置かれている状況は、絶対におかしい。

何なんだ、ここは……。

周りは見渡す限りの草原。

モンゴルか……？

いや、俺は飛行機に乗った覚えはない。そもそも、パスポートなんざ持ってないんだ。

じゃあ、日本国内って線も……。

いやいやいや、俺の地元にこんな場所はない。絶対に。

そういや、俺はさっきまで何をしていた？

学校から帰っている途中だったはずだ。
実莉(みのり)とコンビニで別れて……。
で、アイス食いながら帰ってた。
で？
なんで、俺は今ここにいる？
何だ、何だ、よくある異世界迷い込み系？
バカか、俺は。
あれはあくまで空想の世界だろうがっ！
そんなこと、あるわけがない。
あ、そうだ。夢だ。これは夢なんだ！
だから、俺はこんな見覚えのない草原に……。
いや、でも待てよ。
俺は学校から帰っていたんだ。
まだベッドに入った記憶はない。そもそも家に帰っていない。
なにより、こんなに理性の働く夢があるか？

今までの夢なんて……。

いやいや、今はそんなこと、どうでもいい。

とにかくこの状況を把握しなければ。

立ち上がる。

周りにあるものは、草のみ。

それ以外のものは何一つない。

上を見上げる。雲ひとつない、気持ちいい快晴だ。

こんなに綺麗な空を見るのは、いつぶりだろう。

ガキの頃はよく、田舎のじいちゃんの家へ遊びに行っていた。

その空は、こんな感じだったかな。

そこは、本当にど田舎で、コンビニもなけりゃ、近くにスーパーも、ゲーセンもなかった。

でも、夕焼けが、特別綺麗だった。

俺が想像していたオレンジ色の夕焼けは、そこにはなく、太陽が山へと姿を消すその瞬間、あたり一面、真っ赤に染まる。

本当に真っ赤だった。

こういう色を「紅（くれない）」というんだよ、とじいちゃんが教えてくれた。

けれど、中学に入ってからは、めっきり行かなくなった。

今更、ど田舎に行ってもすることはないし、したいこともない。

たまに、じいちゃんが俺の家に顔を見せにくるくらいで、もう5年近く、あの夕焼けを拝んだことはない。

「東京は、空がくもっとる。こんなじゃけん、たいそうな夕焼けも、見れんのじゃ」

じいちゃんが初めてこっちに来た時、そう呟いて帰った。

確かに、夕焼けは超高層ビル群に阻まれて、くっきりと丸くはない。

だけど、ビルとビルの間から、オレンジ色の光が、顔をのぞかせるんだ。「紅」じゃないけど、それも綺麗なんだ。

さわさわと、草が揺れ、かすれる音がする。

不意に、昔、じいちゃんが話してくれた物語が脳裏に浮かんだ。

この村にはの、古い古い、言い伝えがあるんじゃ。わしも、じいさんから聞いたんじゃが。

はるか昔、この村は、「ヨウコ」と呼ばれていたんじゃ。

昔はの、妖怪やもののけのことを「妖琥(ようこ)」と呼んでおった。

この村には、その妖琥がわんさか出るっちゅう噂があって、それで「ヨウコ」と言われとったんや。

何人もの勇気ある者が、そこへ出向いたが、何人(なんぴと)たりとも戻ってこんかったそうじゃ。

人々はヨウコを恐れ、次第にだーれも、近づかんようになった。

けどな、噂も七十五日。みーんな、ヨウコのことなんざ、さっぱり忘れてしもたんや。

よく言うじゃろ？「災いは忘れた頃に、やってくる」て。

ある日、近くの村で祭りをやっとたんじゃ。

豊作を祈る祭りでの。村のみんなが、広場に集まっとった。

そしたら、いきなり、篝火(かがりび)が一斉に消えたんじゃ。

雨も降っておらんに。

途端に、次々に人が倒れていくんじゃ。

何の前触れもなく、ばたり、ばたりと。

次の日、隣村の村長が見たのは、広場一面に転がった亡骸だそ

うだ。

すべて、肉は食いちぎられたように無くなり、骨だけだったそうじゃ。

隣村の人々は、妖琥（ようこ）の祟りだと、噂した。

その噂は、はるか遠くの地まで伝わったんじゃ。

そうしている間にも、祭りがあるたんびに、周辺の村々は襲われていきよった。

次第に、村は祭りをせんようになった。

この村に夏祭りやら秋祭りがないのもそのせいじゃって言われちょる。

みんな、毎日妖琥に怯えながら生きとった。

けどな――。

そこでぷつりと、何かが切れたかのように、先が思い出せなくなってしまった。

それにしても……小2の頃に聞いた話を覚えてるなんて、俺の記憶力も捨てたもんじゃないな。

……って、感心してる場合じゃねぇ！

そもそも、じいちゃんの話は今は全くもって関係ない。

何で、こんな時に思い出すんだ。

それより、何とかして今のこのわけの分らないところから脱出しなければ。

ここはどこだ？

何が起きた？

どうして俺はこんなバカでかい草原なんかにいる？

やっぱり、異世界迷い込み？

じゃあ、それならなぜ俺なんだ？

別に山田とか鈴木とかでもいいじゃないか。

それとも、俺がここにいるのは何か因果があるからなのか？

異世界ならば、ここはスタート地点なのか？

ここが、俺のすべての始まりなのか……？

〔第1章　始まりはここから〕　第1話　異世界迷い込み？（後書き）

はい。どーも。
最後まで読んでくださった方、ありがとうございます。
こんな、半端な小説をっ……。
本当に嬉しい限りです。
これからもちょいちょい覗いてください～。
では。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7483i/

俺と勇者と（彼女）

2010年10月11日23時27分発行